

千葉市コミュニティ施設における学習機能と空間の対応

日大生産工（院） 片桐 隆博
 日大生産工 広田 直行
 日大生産工 浅野 平八

表1 調査対象の概要

事例番号	館名	竣工年	延床面積 (㎡)	複合施設
1	博徳	1970	426.9	
2	香取	1971	415.6	
3	千城台	1972	1033.9	
4	未広	1973	410.2	
5	椿森	1974	403.6	
6	川戸	1974	403.8	
7	権名	1975	419.9	
8	加賀利	1976	405.0	
9	黒久喜	1977	405.0	
10	大宮	1978	503.5	
11	千草台	1979	505.1	
12	更科	1979	501.9	
13	さつまが丘	1980	504.7	
14	こてはし台	1980	503.0	
15	椋見川	1980	576.5	
16	葛魂西	1981	578.3	
17	華野	1981	505.8	
18	土気	1982	501.9	
19	みつわ台	1982	506.5	
20	若松	1983	507.7	
21	長作	1983	526.8	市民センター
22	山王	1984	518.4	
23	磯辺	1984	518.1	
24	緑が丘	1985	540.7	
25	都賀	1985	541.9	
26	稲浜	1986	1184.6	
27	朝日ヶ丘	1987	540.3	
28	幸町	1987	1062.3	公園住宅
29	高浜	1988	535.3	
30	花見川	1988	604.3	
31	稲毛	1988	556.3	
32	越智	1989	625.7	
33	小中台	1989	948.4	
34	生浜	1991	809.8	市民センター
35	松ヶ丘	1992	1147.5	市民センター
36	菫塚	1993	1178.8	
37	花園	1993	914.8	
38	葛塚本郷	1994	735.1	市民センター
39	桜木	1995	693.7	
40	菅田	1995	1710.5	市民センター
41	宮崎	1998	1173.3	
42	轟	2001	773.6	
43	打瀬	2002	780.7	美浜図書館・打瀬分館・子どもルーム
44	黒砂	2003	767.3	
45	新宿	2005	905.3	
46	白井	2005	749.8	若葉図書館泉分館
47	中央 C.C.	1974	8903.6	千葉市役所・民間施設
48	蘇我 C.C.	1979	2541.8	蘇我駅前連絡所
49	畑 C.C.	1979	2494.1	
50	葛塚 C.C.	1979	3122.4	
51	高洲 C.C.	1980	3459.1	美浜図書館・高洲保護センター
52	都賀 C.C.	1983	3567.5	都賀いきいきセンター
53	千城台 C.C.	1991	3192.0	文化ホール・市民センター・青少年福祉センター分室
54	六川 C.C.	1992	2849.5	稲毛区役所・稲毛消防署
55	土気 C.C.	1993	4586.1	緑図書館あすみが丘分館
56	鎌取 C.C.	2000	2745.3	緑図書館・青少年福祉センター分室
57	花園 C.C.	2005	3965.5	公園施設

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

社会の要求が、集団の教育から個人の学習へと変化している¹⁾。そのなか、生涯学習活動の場の整備²⁾が、大きな課題となっている。

また近年、社会教育法の改正³⁾や、市町村合併による生涯学習関連施設の再編成により、学習行為を行う環境は、転換期にあるといえる。

そこで本研究では、「学習」という機能に注目し、地域住民が自由な学習を行うことのできる、コミュニティセンターと公民館の機能と構成を調査分析する。これにより、コミュニティ施設における学習行為と、その環境への対応に関する知見を得ることを目的とする。

1.2 研究の方法

調査対象は、政令指定都市として生涯学習関連施設の整備を進め、昭和48年より旧自治省の「モデルコミュニティ事業」としてコミュニティセンターの整備が行われた実績をもち、また、旧文部省の管轄であった公民館の設置数も多い、千葉市コミュニティ施設全58事例のうち、図面協力の得られた57事例とする(表1)。

調査は、平面図から室の形状を分析し、実態調査から空間の設えや特性を把握する。また、施設管理者へのヒアリング調査を行ない、施設内の学習行為と各室の利用実態を把握する。これよりコミュニティ施設における学習機能と空間の対応を把握する。

2. 学習諸室の分類と空間特性

2.1 学習諸室の分類と特徴

実態調査より、コミュニティ施設では設置室数や室面積の関係上、複数行為に対応して室の兼用が行われていることがわかる。そこで室の共用が成立する要件として、室名称にかかわらず、学習行為を行うことのできる室を「学習諸室」⁴⁾とし、室の設えの違いにより表2に示す7つに分類する。以下にその特徴を示す。

講習室・会議室は、57事例全てでみられ、椅子・机・黒板を備えている。家具配置は、「教室型」・「コの字型」・「口の字型」など違いがみられるが、家具は固定式ではないため、利用者は自由に配置を変えて、使用している。

- A 料理実習室は、1事例を除く56事例でみられ、調理台を設置し調理器具一式を備えている。履き替え行為は56事例中38事例でみられる。

- B 工作室は、23事例でみられ、工作台を設置し水道設備を備えている。また、5事例で陶芸用の窯室を、付属室として備えている。

- C 音楽室は、11事例でみられ、防音設備を整えピアノを設置している。

- D その他は、1事例でみられ、専門的な実習室として設置されたものであるが、現在は室の利用がほとんどみられない。

表2 「学習諸室」の分類

分類	室名称	設置率	平均面積 (㎡)	室名称一覧
	講習室・会議室	100%	48.3	講習室・サークル室・会議室・研修室・集会所・セミナー室・準備室・印刷室
- A	料理実習室	98%	53.8	調理室・料理実習室・調理実習室・調理講習室・試食室・創作室
B	工作室	40%	59.6	工作室・工芸室・陶芸室・創作室・陶芸工作室・多目的室
C	音楽室	19%	74.1	音楽室
D	その他	2%	59.6	暗室・語学練習室
	和室	100%	53.5	和室・茶室・集会所・研修室・会議室・談話室・講習室・大広間
	多目的ホール	98%	135.9	多目的ホール・講堂・ホール・多目的室・大会議室・劇場・視聴覚室・ヘルシーホール
	図書室	42%	117.1	図書室
	展示室	2%	96.0	展示室
	ロビー・交流室	25%	24.6	ホール・ラウンジ・談話ホール・談話室・展示コーナー・図書室兼談話室・読書室

和室は、57 事例全てでみられ、付属室として水屋を備えている。

多目的ホールは、1 事例を除く 56 事例でみられ、音響設備を整え、椅子を室の隅や倉庫に備えている。

図書室は、24 事例でみられ、図書や資料を備え閲覧席・学習机を設置している。

展示室は、事例 55 の 1 事例でみられ、埋蔵文化財の遺跡を模型・パネルで展示している。

ロビー・交流室は、14 事例でみられ、ロビー空間や交流室に、図書や歴史資料展示コーナーを設置している。

図書室、展示室、ロビー・交流室は、利用の際に予約を必要としない自由利用の空間となっていることから、個人に対応した学習空間であるといえる。

2.2 学習諸室の利用行為

「学習諸室」の利用行為を、8 つの分類別に学習行為に限定してみる。は多様な小集団学習が行われている。は実技実習として利用されている。については研修活動や、着付け・作法教室等の日本文化に関する学習行為が行われている。また、襖を取り外し大広間として大人数の活動にも対応しているため、多目的な利用がみられる。は音楽関連、軽スポーツ関連、視聴覚関連と多目的な利用がみられる。

は資料の閲覧、情報提供機能を備えているため、個人学習に利用されている。特にの談話室等については、本来住民の集会を目的として設置された室であるが、館が独自に、資料の閲覧や情報提供機能を備えたことによって、個人学習に利用されるようになった事例である。

2.3 学習諸室のフレキシブル性

千葉市コミュニティ施設では、「学習諸室」間に襖やスライディングウォールを設置することによって、利用者集団規模の変化に柔軟に対応

している。襖・スライディングウォールの設置位置と、設置枚数の概要を表3に示す。

表3より、可動壁の設置は47事例でみられる。設置位置別にみると、襖を設置している和室間においては、全ての事例において、平常時は室を一体で貸し出している。これは音の問題により、室を分割して利用することが困難なためである。それに対して、講習室・会議室間にスライディングウォールを設置している12事例においては、平常時に室を一体で貸し出しているものが7事例、分割して貸し出しているものが5事例である。これらは黒板やホワイトボードの、可動性や設置位置・設置枚数に係り、室の分割に違いがみられる。また、とも平常時には室の貸し出し方法に特色がみられるが、主催事業や混雑時には、可動壁を活用し、利用行為や利用人数の変化に柔軟に対応している。

表3より、可動壁の設置状況には施設竣工年によって違いがみられる。1971年～1980年の事例においては、和室間に可動壁の設置が最も多くみられる。それに対し、1982年～1989年の事例においては、多目的ホール間と、

表3 可動壁の設置位置と設置枚数

事例番号	館名	竣工年	会議室間	和室間	ホール間	間	その他
2	葛城	1971		1			
3	千城台	1972		1			
4	未広	1973		1			
5	榊森	1974		1			
6	川戸	1974		1			
47	中央C.C.	1974		1	1		1(調理室間)
7	椎名	1975		1			
8	加曾利	1976		1			
9	星久喜	1977		1			
10	大宮	1978	1	1			
11	千草台	1979		1			
12	東科	1979		1			
48	蘇我C.C.	1979	1	1			1(創作室間)
49	畑C.C.	1979	1	1			
50	葛張C.C.	1979		1			1(創作室間)
13	さつきが丘	1980		1		1	
14	こてはし台	1980		1		1	
15	検見川	1980		1			
51	高洲C.C.	1980	1	1			
18	土気	1982			1		
19	みつわ台	1982			1		
20	若松	1983				2	
52	都賀C.C.	1983	1	1			
22	山王	1984				2	
23	磯辺	1984				1	
24	緑が丘	1985			1		
25	都賀	1985				1	
26	稲浜	1986			1		
27	朝日ヶ丘	1987				1	
28	幸町	1987				2	
29	高浜	1988			1		
30	花見川	1988		1		2	
31	稲毛	1988			1		
32	越前	1989			1		
33	小中台	1989		1	1		
53	千城台C.C.	1991		1			
54	穴川C.C.	1992	1	1			1(創作室間)
37	花園	1993		1			
55	土気C.C.	1993		1			
40	菅田	1995	1		1		
56	鎌取C.C.	2000	1				
42	轟	2001	1				
43	打瀬	2002	1				
44	黒砂	2003		1			
45	新宿	2005		1	1		
46	白井	2005	1				
57	花鳥C.C.	2005	1	1			

平常時は一体で部屋を貸し出している

間に、可動壁の設置が多くみられる。特にこの間に設置している事例は、室を分割した時には 講習室・会議室として利用され、室を一体とした時には 多目的ホールとして利用されている。そのため室の分割の有無によって、利用行為に変化がみられる事例郡である。また、1991年～2005年の事例においては、会議室間に可動壁の設置が多くみられる。このことから室のフレキシブル性については、時代の流れに伴って、可動壁の設置位置に、変化があるといえる。

3. 学習諸室からみた室構成

3.1 施設規模と学習諸室率

延床面積に対する「学習諸室」の集積面積の割合を「学習諸室率」とする。延床面積と「学習諸室率」の関係性を、各事例間で比較を行ったのが図1である。これより延床面積の値が高くなるに従って、「学習諸室率」の値は低くなる傾向があることがわかる。施設名称別にみると、公民館は延床面積が低く、「学習諸室率」は高い。特に竣工年が1970年から1989年までの事例は、延床面積が500㎡前後、「学習諸室率」が50%～70%に集約している。また、コミュニティセンターにおいては、延床面積にばらつきがみられるが、「学習諸室率」は20%～40%の範囲内にあることがわかる。

施設規模と「学習諸室率」については、施設の竣工年と室構成比が関係しているため、今後さらに分析が必要な事項である。

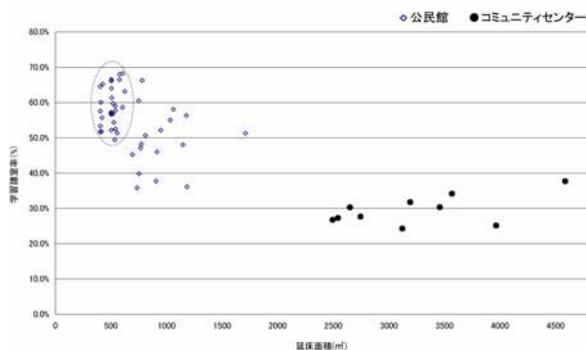


図1 「学習諸室率」と延床面積

3.2 学習諸室の設置率

「学習諸室」の設置率と平均面積を、施設名称別にそれぞれ表5,表6に示す。この表から、公民館の「学習諸室」の設置率をみると、の小集団学習・ - Aの料理実習・ , の多目

の利用は、設置率が100%である。また、コミュニティセンターの「学習諸室」の設置率をみると、の小集団学習・ - A, - B, - Cの実習・ , の多目的利用は、設置率が90%以上と高い。それに対して、個人学習のための , , は公民館・コミュニティセンターとも設置率が50%以下と低い。このことから、千葉市公民館は , - A, , を、千葉市コミュニティセンターは , - A, - B, - C, , を、それぞれ主目的として構成されており、千葉市コミュニティ施設は、集団の学習に対応した施設であるといえる。

次に、施設名称別の違いをみる。表5,表6から、実技実習室である - B工作室と - C音楽室において 設置率に大きな差がみられる。 - B, - Cの設置率が低い公民館においては、水道設備を備えた - A料理実習室や、音響設備を備えた 多目的ホールを、 - B工作室, - C音楽室の代用室として利用している。また、平均面積をみると、コミュニティセンターが、すべての室において高い値を示している。このことから、コミュニティセンターは公民館よりも、機能分化が進み、大人数の学習に対応した施設であるといえる。

表5 公民館の設置率

表6 コミュニティセンターの設置率

分類	室名称	設置率	平均面積(㎡)	分類	室名称	設置率	平均面積(㎡)
	講習室・会議室	100%	42.6		講習室・会議室	100%	54.9
-A	料理実習室	100%	48.8	-A	料理実習室	91%	75.0
B	工作室	26%	50.4	B	工作室	100%	68.8
C	音楽室	2%	49.8	C	音楽室	91%	76.6
D	その他	0%	0.0	D	その他	9%	59.6
	和室	100%	48.9		和室	100%	63.8
	多目的ホール	100%	107.3		多目的ホール	91%	230.3
	図書室	43%	112.1		図書室	36%	142.3
	展示室	0%	0.0		展示室	9%	96.0
	ロビー・交流室	30%	29.4		ロビー・交流室	0%	0.0

4. 学習空間の管理運営実態

4.1 学習諸室の利用時間

「学習諸室」は、予約を必要とする室と、予約を必要としない室とでは、利用時間に違いがみられる。公民館・コミュニティセンターともに予約を必要とする室は、午前9時から午後9時まで室を利用することができる。また、室の利用は、午前(午前9時～正午)・午後(午後2時～午後5時)・夜間(午後5時～午後9時)の3つに分けて 行なっている。これに対して、予約を必要としない自由利用の室は、公民館の 図書室が午前10時から午後5時まで、コミュニティセンターの 図書室, 展示室はともに午前9時から午後5時までの利用となってい

る。これは施設管理者の勤務時間が、午後5時までであり、それ以後は管理人や警備会社に、施設警備を委託しているためである。このことから、個人学習の空間は、管理の問題が重要視され、利用時間が短くなっているといえる。

4.2 オープンスペースと空室利用

千葉市コミュニティ施設では、施設管理者の裁量によって、図書コーナーを設置している事例や、学生のために、自習室として部屋を開放している事例がみられる。表7に各事例の概要を示す。

表7より、近隣住民による寄贈図書や、図書館の廃棄図書によって、図書コーナーを設置している事例は11事例でみられる。これらは全て予約を必要としない、自由利用が可能なオープンスペースに設置している。また、千葉市公民館には全46事例において、来館者が自由に利用できるコンピュータを、オープンスペースに設置している。このことから、オープンスペースには個人学習のための、図書とIT学習設備が設置されているといえる。そのため今後、オープンスペースの使い方が、個人学習の空間にとって重要であるといえる。

次に表7より、自習室は29事例でみられる。このうち、常時、部屋を自習室として開放して

いるものが3事例、週休二日制によって、土曜日のみ自習室として開放しているものが1事例、学生の夏休みや冬休みの長期休暇に合わせて、自習室として開放しているものが26事例である。また、この26事例は全て、予約を必要とする室である。そのため26事例中11事例が、開放期間中はその室に他の予約が入らないように調整し、26事例中15事例においては、予約の入っていない空き室を、自習室として開放している。これは、フレキシブルな施設運営によって、個人学習の需要に対応しているためである。このことから、暫定的に利用される個人学習の空間は、施設の管理運営方法の違いにより、開放する室と利用時間帯に変動があるといえる。

5. まとめ

5.1 学習諸室間の実態

室のフレキシブル性については、時代の流れに伴って、可動壁の設置位置に変化がみられる。

室構成については施設名称別に、千葉市公民館が 講習室・会議室、 - A料理実習室、和室、多目的ホールを、千葉市コミュニティセンターが 講習室・会議室、 - A料理実習室、 - B工作室、 - C音楽室、和室、多目的ホールを、それぞれ主目的として構成されている。また、コミュニティセンターは公民館よりも、機能分化が進み、大人数の学習に対応した施設である。

5.2 個人学習の空間

個人学習の空間については、管理の問題が重要視され、利用時間が短くなっている。また、フレキシブルな施設運営によって、暫定的な個人学習の空間をつくりだし、個人の学習に対応している。

本研究により、自由利用が可能なオープンスペースに図書やIT学習設備を設置し、個人学習に対応していることがわかった。今後は個人学習の需要を明確に把握し、施設がどのように対応しているかを求める必要がある。

【注】

- 1) フォール報告書「Learning to Be」(邦題「未来の学習」1973年)
- 2) 「生涯学習の基盤整備について」(中央教育審議会答申1989年)
- 3) 「地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律」(平成11年法律第87号)による改正
- 4) 安藤淳一ほか「学習諸室率の方法論的考察 - 地域集会施設事例にみる室構成に関する研究2 - 」, 日本建築学会大会(関東)研究報告, P443~P444, 1993年

【参考文献】

- 1) 日本生涯教育学会 編：生涯学習辞典
- 2) 日本公民館学会 編：公民館コミュニティ施設ハンドブック

表7 図書コーナーと自習室

事例番号	館名	図書コーナー	自習室
1	檜橋	談話室	空き室
2	葛城		空き室
3	千城台		空き室
5	椿森		会議室
6	川戸	ロビー空間	
7	椎名	読書室	空き室
8	加曽利	図書室兼談話室	
9	星久喜	談話室	談話室(常時)
10	大宮		空き室
11	千草台		空き室
13	さつきが丘		和室
14	こてはし台	ロビー空間	
15	検見川		談話室(常時)
16	幕張西		和室
17	草野	ロビー空間	空き室
18	土気	ロビー空間	空き室
20	若松		会議室
21	長作		空き室
24	緑が丘		空き室
25	都賀		空き室
26	稲浜		会議室(土曜日)
27	朝日ヶ丘		会議室
28	幸町		学習室(常時)
29	高浜	ロビー空間	会議室
30	花見川		空き室
32	越智		会議室
36	幕張		会議室
37	花園		空き室
39	桜木	ロビー空間	
41	宮崎		会議室
42	轟	ロビー空間	
44	黒砂		会議室
46	白井		講習室
57	花鳥 C.C.		集会室